

平成29年度事業

教育委員会の事務に関する  
点検評価報告書

平成30年8月

男鹿市教育委員会

## 《 目 次 》

|   |                                |    |
|---|--------------------------------|----|
| 1 | 点検・評価の趣旨                       | 1  |
| 2 | 点検・評価の方法                       | 1  |
| 3 | 学識経験者の知見の活用                    | 2  |
| 4 | 教育委員会会議の開催状況                   | 2  |
| 5 | 教育委員会会議の審議状況                   | 2  |
| 6 | 教育委員会会議以外の活動状況                 | 4  |
| 7 | 平成29年度重点事業の点検・評価               |    |
|   | <b>I 【教育環境の整備】</b>             |    |
|   | 1 コミュニティ・スクール推進事業              | 5  |
|   | 2 小中学校学習環境整備事業                 | 6  |
|   | <b>II 【地域間交流の機会充実と国際交流の推進】</b> |    |
|   | 1 男鹿・春日井市児童交流学習事業              | 7  |
|   | <b>III 【生涯学習の推進】</b>           |    |
|   | 1 明日を創る新成人の集い                  | 8  |
|   | <b>IV 【生涯スポーツ活動の推進】</b>        |    |
|   | 1 なまはげカップ中学生バスケットボール大会         | 9  |
|   | 2 男鹿市チャレンジデー                   | 10 |
|   | <b>V 【芸術・文化・伝統の保護・継承】</b>      |    |
|   | 1 「男鹿のナマハゲ」保存継承事業              | 11 |
|   | 2 ジオパーク推進事業                    | 12 |

## 1 点検・評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正(平成20年4月1日施行)され、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、本市教育委員会が、男鹿市総合計画に基づく重点事業の取り組み状況について点検、評価を行い、課題の方向性を明らかにすることにより、教育行政の一層の推進と市民への説明責任を果たしていくために、平成29年度に執行した事業について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに市民の皆様に公表するものです。

## 2 点検・評価の方法

本市教育委員会は、毎年度、教育目標を掲げ、その目標の実現に向けた重点事業を実施しており、これらの事業を対象に教育委員会自らが事務の執行状況について、点検・評価を実施したものです。

なお、平成30年度の点検・評価は、平成29年度事業を対象に実施しました。

|   |
|---|
| 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)<br>(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)<br>第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。<br>2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。 |
|---|

### 男鹿市教育長・教育委員名簿 (平成29年度在籍)

| 職 名      | 氏 名     |
|----------|---------|
| 教 育 長    | 鈴 木 雅 彦 |
| 教育長職務代理者 | 目 黒 恵 子 |
| 委 員      | 角 崎 紘 二 |
| 委 員      | 吉 田 貴美子 |
| 委 員      | 安 田 一 彦 |

### 3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律26条第2項で、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められておりますので、本市教育委員会では、教育に関し学識経験を有する次の方から、意見をいただきました。

○三浦 豊彦 氏

### 4 教育委員会会議の開催状況

| 開催日         | 会議         | 場所         |
|-------------|------------|------------|
| H29. 5. 29  | 第4回教育委員会会議 | 本庁舎3階第1会議室 |
| H29. 6. 2   | 教育委員会臨時会議  | 払戸小学校校長室   |
| H29. 8. 7   | 第5回教育委員会会議 | 本庁舎3階第1会議室 |
| H29. 10. 10 | 第6回教育委員会会議 | 本庁舎3階第1会議室 |
| H29. 11. 9  | 第7回教育委員会会議 | 本庁舎3階第1会議室 |
| H29. 12. 22 | 第8回教育委員会会議 | 本庁舎3階第1会議室 |
| H30. 2. 14  | 第1回教育委員会会議 | 本庁舎3階第1会議室 |
| H30. 3. 14  | 第2回教育委員会会議 | 本庁舎3階第1会議室 |

### 5 教育委員会会議の審議の状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条及び「男鹿市教育委員会事務委任規則」第2条の規定に基づき、平成29年度は議案12件の審議と、報告事項等17件、合計で29件を取り扱いました。

#### (1) 議会の議決を経る議案に関する意見の申し出に関すること。 5件

- 平成29年度教育費 6月補正予算 9月補正予算 12月補正予算 3月補正予算
- 平成30年度教育費 当初予算

#### (2) 教育委員会規則の制定及び改廃及び一部改正に関すること。 5件

- 男鹿市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について
- 平成30年4月1日付け組織機構改革に伴う規則の廃止について
- 平成30年4月1日付け組織機構改革に伴う規則等の一部改正について
- 男鹿市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に係る決裁に関する規程について
- 男鹿市指定文化財の指定について

**(3) 教育施策の基本方針の決定に関すること。** **2件**

- 平成30年度学校教育の基本方針（案）及び重点目標と努力事項（案）について
- 平成30年度生涯学習の重点目標と施策の方向（案）について

**(4) 教職員、事務局職員等の人事に関すること。** **1件**

- 平成29年度末職員の人事異動について

**(5) 報 告 事 項 等** **16件**

- 平成30年度使用「小学校教科用図書『特別の教科 道徳』」の選定について
- 第8回日本ジオパーク全国大会・大潟大会について（2回）
- 男鹿市チャレンジデー2017の結果について
- 男鹿駅伝競走大会の実施状況について
- 「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産登録のに向けた取り組み状況について
- 「今さらですが、ナマハゲしゃべりをしてもらえませんか」の実施状況について
- 来訪神行事DVD（文化庁作成）の上映について
- 男鹿市組織機構改革（素案）について
- 平成29年度全国学力学習状況調査の結果について
- 「かがやけ未来の男鹿プロジェクト」について（2回）
- 「第30回秋田船方節全国大会」について
- ユネスコ無形文化遺産の審査について
- 第7回なまはげカップ中学生バスケットボール大会について
- 明日を創る新成人の集い（男鹿市成人式）について
- 教育委員会の事務に関する点検評価報告書について（2回）
- 市議会定例会での一般質問について（教育委員会関係）（4回）

**合 計 29件**

## 6 教育委員会会議以外の活動状況

### ① 入学式（入園式）

| 月   | 日     | 学 校 名                                       |
|-----|-------|---|
| H29 | 4. 7  | 男鹿南中学校、男鹿北中学校、男鹿東中学校、潟西中学校                  |
| H29 | 4. 8  | 船川第一小学校、脇本第一小学校、船越小学校、北陽小学校、<br>払戸小学校、美里小学校 |
| H29 | 4. 11 | 若美幼稚園                                       |

### ② 卒業式（卒園式）

| 月    | 日     | 学 校 名                                       |
|------|-------|---|
| H30. | 3. 9  | 男鹿南中学校、男鹿北中学校、男鹿東中学校、潟西中学校、<br>若美幼稚園        |
| H30. | 3. 15 | 船川第一小学校、脇本第一小学校、船越小学校、北陽小学校、<br>払戸小学校、美里小学校 |

### ③ 学校訪問

| 月    | 日     | 学 校 名          |
|------|-------|----------------|
| H29. | 6. 1  | 北陽小学校、男鹿北学校    |
| H29. | 6. 2  | 脇本第一小学校、払戸小学校  |
| H29. | 7. 6  | 男鹿東中学校         |
| H29. | 7. 11 | 船川第一小学校、男鹿南中学校 |
| H29. | 7. 12 | 船越小学校          |
| H29. | 7. 18 | 美里小学校、潟西中学校    |

## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### I 【教育環境の整備】

#### (1) コミュニティ・スクール推進事業

|            |  |
|------------|--|
| 方針・目標      | 市内小・中学校に「学校運営協議会」を設置し、学校・地域・家庭が一体となって学校をサポートする取組を推進し、地域に開かれた学校づくりを支援する。  |
| 目標値        | <p>コミュニティ・スクールに関するアンケートを実施。次の設問についての4段階評価で目標値を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールの成果について（3. 2）</li> <li>・コミュニティ・スクールが地域住民に周知できている（2. 5）</li> </ul>   |
| 事務事業の実績    | <p>平成28年4月に市内全小・中学校を一斉にコミュニティ・スクールに指定した。各校においては、10～13名で構成される「学校運営協議会」を設置し、年4～5回実施した。</p> <p>各校では、地域と合同での避難訓練や防災教室の開催、野菜の栽培活動、施設等への訪問活動、奉仕活動、伝統文化学習など多様な実践が見られた。学校運営協議会会長と副会長、校長と教頭を対象にしたCS情報交換会を9月、2月の年2回開催し、他校の実践に触れ、課題等について話し合うとともに、船越小学校を会場として、CSマイスター野澤氏（宮城教育大特任教授）を講師とする研修会を開催した。</p> <p>事業費 1,610,000円</p> |
| 点検評価       | <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る ■ ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>（説明）<input type="checkbox"/> アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールの成果について（3. 4）</li> <li>・コミュニティ・スクールが地域住民に周知できている（2. 8）</li> </ul>                    |
| 点検による事業の課題 | <p><input type="checkbox"/> 拡充 ■ 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>（具体的な課題及び取組）</p> <p>平成29年度は指定2年目となるが、昨年度の実績を踏まえた各校の取組が見られたが、地域住民への周知において、工夫改善を図る必要がある。</p>   |
| 教育委員評価     | <p>各校ともに創意工夫、改善など意欲的な取り組みが見られた。周知については学校からの印刷物によるお便りだけでなく、活動内容がわかる手作りポスターを作成して公民館に掲示する等でより広く周知できるのではないかと。今後も学校間で情報交換を密にした上で、地域の特性を生かした独自の事業も展開していただきたい。</p>  |
| 学識経験者意見    | <p>各校の校報によるCSに関する情報提供は、意図的・定期的に行われ、周知への努力がなされている。無理のない活動から徐々に活動の幅を広げ、学校と地域との交流の輪を深めていけるよう進めていくべきである。また、地域学校協働本部のコーディネーターとの連携も密にし、両論で子どもたちの成長を支えることも大事である。開かれた学校運営がなされてきている。</p>  |

## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### I 【教育環境の整備】

#### (2) 小中学校学習環境整備事業

|            |  |
|------------|--|
| 方針・目標      | 安全安心な学校環境整備のためにトイレの水洗化の推進、保健室へのエアコン設置を実施し、適切な教育環境の実現を図る。   |
| 目標値        | 市内10校トイレ洋式化率→100%<br>保健室エアコン設置率→100%   |
| 事務事業の実績    | <p>◎ 船越小学校トイレ改修工事<br/>(H29年8月7日着工～H29年8月21日完成)<br/>事業費 802,440円<br/>改修工事 (1階東側男子1基・女子2基 低学年用)<br/>市内10校トイレ洋式化率 67.0%→68.1%</p> <p>※ 船越小学校洋式化率 32.4%→40.5%</p> <p>◎ 保健室エアコン設置工事<br/>(H29年7月～H29年8月完成)<br/>事業費 1,274,400円<br/>設置箇所(北陽小・美里小・男鹿南中・男鹿東中・男鹿北中・潟西中)<br/>保健室エアコン設置率 40%→100%</p> |
| 点検評価       | <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る ■ ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る<br/><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>(説明)<br/>児童の安全を配慮しながら、工期の中で順調に工事を進める事ができ、安全な学校生活を送るための整備を図る事ができた。</p>   |
| 点検による事業の課題 | <p><input type="checkbox"/> 拡充 ■ 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>(具体的な課題及び取組)<br/>H30年度は洋式化率の低い船越小学校で4基、潟西中学校で4基の洋式化工事を行う予定。工事実施後は洋式化率が68.1%から70.9%となる。学校施設は災害があった際住民の避難施設にもなる事から、財政状況を見極めながら洋式化を進め100%達成を目指す。</p>                                  |
| 教育委員評価     | 様式トイレの設置は現代の子供たちにとって必要不可欠なものであり洋式化が進んだ事は評価したい。また保健室のエアコン設置率が100%になった事も評価できるが、実習教科の機材等についても、現実に沿ったものに変えて行く必要があるのではないかと。   |
| 学識経験者意見    | 理想値の100%目標には、まだまだ遠い感はある。せめて中学校の30%台の数値を50%以上に引き上げるべく努力をお願いしたい、学校生活に少しでも支障をきたさぬよう工期に配慮して整備に努めておられることは、十分理にかなっている。   |



## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### II【地域間交流の機会充実と国際交流の推進】

#### (1) 男鹿・春日井市児童交流学習事業

|            |   |
|------------|---|
| 方針・目標      | 昭和62年から始まった本事業は、平成29年度で31回(男鹿市児童の春日井訪問は28回)を数える。両市の代表児童が、3泊4日の日程で相互に訪問し、交流校における学習会、ホームステイ、市長表敬訪問、文化・歴史施設等において宿泊体験学習を実施する。   |
| 目標値        | 体験活動や交流会に楽しく参加して友情を深めるとともに、思いやりの心を積極的に態度で表すことができるようにする。<br>多くの友人や人との交流に際し、進んであいさつするとともに、相手や場に応じた言葉づかいや行動ができるようにする。<br>交流先の文化遺産、自然等にふれ、改めてふるさとについて考えを深めることができるようにする。   |
| 事務事業の実績    | 平成29年度は春日井市訪問団(春日市児童37名、引率6名)が平成29年8月3日～6日に来市した。市長表敬訪問、船一小児童との交流会、本市児童宅でのホームステイを実施し、両市の児童が体験活動を通して交流を深めた。その他、五里合中石梨畑、男鹿市ジオパーク学習センター、なまはげ館・なまはげ伝承館などを見学し、秋田・男鹿の自然と文化を体験する活動が展開された。<br>男鹿市訪問団(男鹿市児童20名、引率4名)が平成29年10月20日～23日に春日井市を訪問した。春日井市立西山小においての交流学習(※丸田小は台風による休校のため実施できず)、市長表敬訪問、児童宅でのホームステイ、春日井まつり、名古屋城やトヨタ産業技術記念館などの歴史施設・産業施設見学を実施した。訪問交流校では、本市代表児童による秋田・男鹿の文化・歴史・自然等についての発表や、伝統行事「なまはげ」の実演など、訪問の目的に沿った活動が展開された。<br>事業費 1,998,000円 |
| 点検評価       | <input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る<br><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る<br><br>(説明)<br>訪問児童は、見学先において、代表的な産業や歴史について学ぶとともに、ホームステイや交流校における人々とのふれあいを通して、人と人とのつながりやふるさと秋田・男鹿について見つめ直す機会となった。訪問後に、交流学習の記録を男鹿市交流学習感想文集「春日井の思い出」にまとめた。  |
| 点検による事業の課題 | <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他<br><br>(具体的な課題及び取組)<br>学校数(春日井市37校、男鹿市6校)の差が広がり、本市でのホームステイ受け入れ家庭の確保が困難となっている。   |
| 教育委員評価     | 多くの友人と交流を持つことで、自分と違う考えをする人がたくさんいる中で、自分をどう表現するか、相手の気持ちを考えどのように接するか、心の動きを非常に成長させる良い体験ができる事業である。離れてみて男鹿の良さを再認識できるいい機会になるので是非継続していただきたい。  |
| 学識経験者意見    | 男鹿・秋田に関する祭りや暮らし、産業等についてそれらの特色を十分に学習しておくべきである。ホームステイ先でのコミュニケーションにも活用できるほか対比的に春日井市方面への理解を深める上でも役立つ。またこの交流により外から男鹿を眺めることで、男鹿固有の特色を再認識したり、多様な価値観の情勢を図ったりすることができるものと思われる。  |

## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### Ⅲ【生涯学習の推進】

#### (1) 明日を創る新成人の集い（男鹿市成人式）

|            |  |
|------------|--|
| 方針・目標      | 成人を迎えた市民の成人としての自覚と責任感を高揚するとともに、明日の男鹿を担う世代の限らない発展を願い、新成人としての門出を祝福するために開催する。   |
| 目標値        | 新成人より構成される実行委員とともに、新成人を激励し、明日への活力を発起できるような成人式を制作する。  |
| 事務事業の実績    | 日 時：平成30年1月7日（日）<br>会 場：男鹿市民文化会館 大ホール<br>参加数：181人（新成人）<br>決 算：591,889円   |
| 点検評価       | <input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る<br><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る<br><br>（説 明）<br>今年度より、式典部分に「国歌斉唱」「市民憲章唱和」「新成人代表挨拶」を追加。より厳かな雰囲気の中で、新成人を激励することができた。<br>9名の実行委員とともにアトラクション部分を作成。実行委員以外の新成人からも協力をいただくことで、心に残る成人式を制作することができた。 |
| 点検による事業の課題 | <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他<br><br>（具体的な課題及び取組）<br>引き続き新成人より実行委員を募り、自らの手で成人式を創り上げることで、明日を創る新成人の士気を高める。   |
| 教育委員評価     | 新成人の代表者による実行委員会での企画は、新成人の意識を高め合う内容であり、自らの成人式を計画実行することは、参加者の共鳴度も高く、自立的な立派な成人式である。今後一層の充実を期待したい。   |
| 学識経験者意見    | 主体的な企画のもとで、節度ある落ち着いた成人式が行われている。式典に国歌斉唱を取り入れるなどの変化を持たせたことは、今後とも節々において儀式的な催し物をするであろう若者たちにとって、十分に意義があったのではないだろうか。   |

## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### IV【生涯スポーツ活動の推進】

#### (1) なまはげカップ中学生バスケットボール大会

|            |  |
|------------|--|
| 方針・目標      | 本大会は、全日本女子代表やbjリーグのヘッドコーチを歴任された、中村和雄氏の「地域を元気にしたい。それは日本一の中学生バスケットボールチームを男鹿に創ること、そのためには強豪チームと競い合うこと」という熱い思いから始まったもので、中学校教育の一環として、バスケットボールを通して全国の中学校の交流を図るとともに、市内チームの強化育成を目的としているものである。   |
| 目標値        | 男子12チーム（内県内3チーム）、女子10チーム（内県内5チーム）で第7回目となる大会を実施する。  |
| 事務事業の実績    | ◇平成29年度 第7回なまはげカップ中学生バスケットボール大会<br>・期日 平成29年12月28日（木）～12月30日（土）<br>・場所 男鹿市総合体育館・若美総合体育館<br>・主催 なまはげカップ中学生バスケットボール大会実行委員会<br>大会参加チーム数（男女22チーム）<br>男子12チーム（県内3チーム）・女子10チーム（県内5チーム）<br>事業決算 1,178,008円（うち市補助金1,170,000円）  |
| 点検評価       | <input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る<br><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る<br>（説明）<br>全国大会にも出場しているチームのハイレベルな試合が展開された。大会名誉顧問である中村和雄氏からレセプション時に、ふるさと納税など大いに男鹿をPRしていただいたほか、出身地「男鹿」に対する熱い思いも語っていただいた。 |
| 点検による事業の課題 | <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他<br>（具体的な課題及び取組）<br>年末開催ということもあり、観客が参加校の保護者等が中心となっている状況であることから、集客面での工夫が必要である。<br>悪天候時を想定した関係者等とのスムーズな連絡体制の構築が必要。                              |
| 教育委員評価     | 地元に住ながら強豪チームとの交流、試合を通して技術面、メンタル面の強さを体感できることは大変素晴らしいことである。今後地元チームの技量向上をどう高めていくかが大切である。そのためにも本市生徒への普段の継続的指導のあり方を検討していただきたい。  |
| 学識経験者意見    | 競技者にとって、レベルの高いチームとの対戦や観戦は、意識の高揚や技量を高める上での貴重な体験になるのではないかと。諸般の事情から年末の実施となっているようだが、市内の中学生に観戦希望者を募り、市のバスを活用して送迎する等の態勢は取られないものだろうか。   |

## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### IV【生涯スポーツ活動の推進】

#### (2) 男鹿市チャレンジデー

|            |  |
|------------|--|
| 方針・目標      | チャレンジデーを通じて市民の絆・街づくり、健康増進を図る。  |
| 目標値        | 参加率 55%以上・金メダルを目標とする。  |
| 事務事業の実績    | <p>◇ 男鹿市チャレンジデー2017</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期日 平成29年5月31日(水)0時～21時</li> <li>・場所 市内全域</li> <li>・主催 男鹿市チャレンジデー実行委員会</li> </ul> <p>参加者数：15,966人</p> <p>内訳：各公民館4,190人／学校関係2,805人／市内各団体5,215人</p> <p>市主催イベント225人／買物ウォーキング3,531人</p> <p>事業決算 864,915円 (うち市補助金450,000円)</p> |
| 点検評価       | <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> まぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>(説明)</p> <p>健康運動指導士を活用した新規事業を実施した。</p> <p>庁内各課に依頼し、関係団体へチャレンジデーへの参加を呼びかけた。</p>   |
| 点検による事業の課題 | <p><input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>(具体的な課題及び取組)</p> <p>実際に、15分以上の身体活動に取り組んでいる市民は多数いると思うが、事務局への報告がされないため、参加率の大幅な向上につながらない。</p>   |
| 教育委員評価     | <p>自宅で参加している方の報告がよりやりやすい方法を考えていただきたい。また、自宅内ではなく市や町内で行っているイベントに積極的に参加してもらえよう努めてほしい。地域総合型スポーツに、手軽に身近に活動できるような企画が必要ではないか。</p>   |
| 学識経験者意見    | <p>健康寿命秋田県一を標榜するためにも、教育機関や各公民館、市役所等のもとより市内各事業所で、平素から運動に取り組む習慣作りへの働きかけが必要ではないか。健康子育て課との共催で、推進できる取り組みも一考に値する。車で乗り付けての買い物ウォーキングは、参加率の数字を押し上げたいという思惑も見えるようで、健康増進を図るという視点からの取組としては疑問に思われる。</p>  |

## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### V【芸術・文化・伝統の保護・継承】

#### (1)「男鹿のナマハゲ」保存継承事業

|            |   |
|------------|---|
| 方針・目標      | <p>「来訪神：仮面・仮装の神々」ユネスコ無形文化遺産登録への動きを受け、「男鹿のナマハゲ」行事を保存・継承するための取組みを実施する。</p> <p>ユネスコ無形文化遺産登録を目指す全国10行事11自治体による来訪神行事保存・振興全国協議会（事務局 男鹿市）として登録への準備を行う。</p>   |
| 目標値        | <p>平成28年度に刊行した行事实施状況調査報告書の資料を基に、行事实施町内等と情報交換をする。・協議会を開催し、ユネスコ登録準備を進める。</p>  |
| 事務事業の実績    | <p>男鹿市菅江真澄研究会と連携し、「今さらですがナマハゲしゃべりをしてみませんか2017」を開催（1回目60名・2回目38名参加）</p> <p>ユネスコ無形文化遺産登録を目指す全国10行事11自治体（行事保存会含む）による来訪神行事保存・振興全国協議会議を開催（東京都）。</p> <p>事業費 197,075円</p>  |
| 点検評価       | <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> まぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>（説明）</p> <p>「ナマハゲしゃべり」において実施状況調査の成果報告、実際に行事を行っている市民同士の意見交換の場を提供した。</p> <p>協議会事務局としての文化庁、会員自治体の調整を行った。</p> <p>協議会を開催し、ユネスコ登録準備の取組み、行事保存・継承について情報交換を行った</p> |
| 点検による事業の課題 | <p><input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>（具体的な課題及び取組）</p> <p>ユネスコ登録を好機ととらえ、観光と連携し、男鹿のナマハゲとそれを支える男鹿半島の風土を広く発信する。</p> <p>行事の在り方、保存・継承について行事实施町内会と共に課題を共有し、必要な支援を行う。行事内容の変化等を把握するため、定期的な詳細調査を実施する。</p>                          |
| 教育委員評価     | <p>大晦日になまはげ行事を行えている数少ない町内の取組み方、工夫についての情報、意見交換の場を増やしていけるといい。ナマハゲ行事をすたれさせる事なく継続するための対策が必要である。</p>   |
| 学識経験者意見    | <p>毎年大晦日で全国放映されているナマハゲ行事は秋田の竿灯以上に全国での認知度が高い。行事保存・継承のシンボルとしてのなまはげ館や男鹿真山伝承館の整備、充実は必然である。男鹿の観光スポットの重要拠点として多くの観光客が訪れている。今後とも各地区に働きかけ、できる限り行事の実施が行われるように、支援の工夫をしていただきたい。行事ができるよう高校への働き掛けがあってもいいのではないかと。</p>  |

## 7 平成29年度重点事業の点検・評価

### V【芸術・文化・伝統の保護・継承】

#### (2) ジオパーク推進事業

|            |  |
|------------|--|
| 方針・目標      | 男鹿市、大潟村のすぐれた大地の遺産と歴史・自然・文化遺産等を活用し、男鹿半島・大潟ジオパークの更なる質の向上を目指す。  |
| 目標値        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 第8回日本ジオパーク全国大会 2017 男鹿半島・大潟大会の実施</li> <li>◎ 秋田県ジオパーク連絡協議会等の連携事業</li> <li>◎ ジオツアーの催行（全国大会との連動。市企業局、観光協会等との連携。）</li> </ul>  |
| 事務事業の実績    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 全国大会開催期間中（H29.10.25～27）参加者数 1,232 人（のべ参加者数 7,485 人）。総事業費 21,508,964 円。男鹿市・大潟村の負担金 9,000 千円に対し、2 市村管内の経済効果推計 38,100 千円。4.2 倍の消費効果。</li> <li>◎ 研究助成事業（申請 6 件、採択 4 件）、普及啓発イベント（8/18・能代市文化会館・約 370 人参加）</li> <li>◎ ジオガイド実績 186 件・4,106 人。（昨対比：6 件・325 人の増）</li> </ul>   |
| 点検評価       | <p> <input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る         <input type="checkbox"/> まぼ目標どおり         <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る<br/> <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る       </p> <p>（説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 地元の小中学校や幅広い主体と一緒に大会を盛り上げ、成功につなげることができた。ジオパークを通じた地域の活性化に貢献できた。</li> <li>◎ 基礎研究の底上げによるジオ資源の付加価値向上と県内ジオ推進地域の連携が JGN、JGC からも評価されている。</li> <li>◎ ジオツアーは平成 30 年度分の問合せもあり、今後も需要が見込まれる。</li> </ul> |
| 点検による事業の課題 | <p> <input type="checkbox"/> 拡充         <input checked="" type="checkbox"/> 継続         <input type="checkbox"/> 廃止検討         <input type="checkbox"/> その他       </p> <p>（具体的な課題及び取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 全国大会の成功を平成 31 年度の日本ジオパーク再認定につなげたい。</li> <li>◎ ジオパークに関する基礎研究の底上げと、県内連携の充実をさらに進める。</li> <li>◎ 定番商品となるツアーの造成。参加料金で企画催行できる工夫と質の保証。</li> </ul>  |
| 教育委員評価     | 再認定に繋がるよう県内外への積極的なPRを展開して頂きたい。展示等解りやすく映像による解説等を駆使し、興味、関心を引く企画の開発を期待したい。大会以降もジオツアーの問い合わせが続いているということなので、男鹿の観光発展のためにも事業継続していただきたい。  |
| 学識経験者意見    | ジオガイド研修や養成が定期的に行われ、比較的順調に推進されているように思われる。ふるさと学習の一環として、小学生によるふるさと探訪が行われている。これらと組み合わせたジオスポット巡りという一日体験学習を実施させるのも、地域住民の関心醸成という視点に通じ、H31 年度の再認定に向け少なからず寄与するのではないだろうか。観光業者へも、ジオの一端の「スポット見学」の盛り込みを宣伝し、丸ごと男鹿観光巡りを売り出す施策を行政・企業と一体になって考えてもらいたい。   |